

「日本語を使いこなせる職業人に」 コクヨで日本語研修を開催

日本語が好きだから

語検

受検団体取材記

コクヨ株式会社

「日本語をきちっと使いこなせる職業人に」。文具・事務用品の大手メーカー、コクヨ（本社・大阪市）で、今春入社した新卒社員に対する日本語研修が4月20日、川崎市内で行われました。同社が新卒社員研修の一環として日本語についての研修を実施するのは昨年につき2回目。「研修の中でテストを行うことで、日本語に対する関心を高めるとともに、自らの日本語力を自覚してもらうのに役立つ」（平田実人材開発部課長）と話しています。

この日の講師は、日本語検定委員会認定講師の佐藤芳道先生。最初に「今の若者は敬語などの使い方がなっていないと批判されていますが、学校教育だけでは、日常生活の中で十分に使いこなせる日本語力は身に付けることは難しい。」などと指摘し、日ごろから日本語に対する関心を持ち、読書なども通じてその力を高める努力をすることの重要性を強調しました。

このあと、25人全員が1時間かけて敬語や文法、語彙、漢字など6領域からなる日本語検定3級の問題に挑戦。さらに、その一部を取り上げて答え合わせし、佐藤先生が尊敬語や謙譲語、丁寧語の違い、二重敬語、「ら」抜き言葉など不適切な言葉遣いなどについて解説しました。



この中で佐藤先生は、「学生と違って社会人は相手によって言葉を使い分けなくてはならないという気苦労があります」としながらも、「敬語の使い方や文法などはきまりがあるので、原理原則を理解すれば言葉遣いの間違いはなくなります」と、社外からの電話での言葉遣いや手紙のルールなど具体的なビジネス・ケースを取り上げながら説明しました。

 平田実人材開発部課長